



台風に関する農作物の事前・事後対策

JA グループ和歌山農業振興センター

【はじめに】

9月に入り、台風の発生・接近が多くなる季節となってきました。

今回は台風の接近に伴う事前・事後対応の基本について紹介します。

前提として、台風襲来中は、大変危険ですので、ほ場や施設を見に行くようなことは絶対にせず、人命第一で行動してください。

1 施設栽培

- ①ハウス周囲の排水溝を整備し、大雨による雨水の浸入を防ぐ。
- ②ハウス周囲の飛散物を撤去する。
- ③被覆フィルムの破損部分の補修を行う。
- ④フィルムの浮き上がり防止のため、マイカー線の増し締めと本数の追加や防風ネット等で被覆するが、倒壊等の恐れがある施設では、早期にビニールを除去する。

2 果樹全般

【事前対策】

- ①枝折れを防止するため、支柱の補強と枝梢の結縛・誘引を行う。
- ②排水溝の点検・整備により園地の排水対策を行う。
- ③防風ネットの補修・補強を行う。

【事後対策】

- ①倒伏樹は速やかに引き起こし、支柱などで固定する。折れ枝は健全部位まで切戻し、塗布剤などで保護する。安定した後にかん水を行い、その後に発生した枯れ枝はその都度処理する。
- ②適切な薬剤散布により病害虫の発生を防止する。
- ③雨が少ない台風の場合、塩害の危険性があるため、葉に塩分を感じたら、すみやかに散水(2~3t/10a)する。一般的には通過後6時間以内の散水が効果的。

3 野菜類・花き類の対策

【事前対策】

- ①露地野菜・花きで風害の恐れのある場合、べたがけ資材等で被覆し、被害軽減に努める。
- ②排水溝の点検・整備により園地の排水対策を行う。

【事後対策】

- ①冠水や浸水を受けたほ場では速やかな排水に努め、土寄せ、追肥や液肥の葉面散布等により生育の回復に努める。
- ②定植後の秋冬野菜など、適切な薬剤散布により病害虫の発生を防止する。
- ③冠水又は浸水の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努めるとともに、倒伏した株を早急に立て起こし、茎や花穂の曲がり防ぐ。

4 水稲

【事前対策】

- ①事前に排水路のつまり等の点検・補修を行い、冠水時の速やかな排水に備える。
- ②冠水により、稲刈り後の切りわらが排水溝等に詰まらないように注意する。

【事後対策】

- ①浸水、冠水被害を受けたほ場では、速やかな排水に努める。
- ②収穫直前の水稲が倒伏した場合は、天候が回復次第、すみやかに刈り取りを行うように努める。

